

2004 . 4

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

「絵本お読みしましょうか」。白石保健センターの待合室で十か月児健診に訪れた親子に声を掛ける人がいる。親と赤ちゃんとのコミュニケーションを深めてもらおうと、絵本の読み聞かせやアドバイスをしているのが、絵本読み聞かせの会「すてつぷ」。このボランティアグループの代表を務めているのが越前さんだ。彼女が絵本の世界に足を踏み入れたのは平成十年のこと。大ケガで入院した娘と一緒に病院のボランティアの人から絵本を読んでもらった。「人に読んでもらうことの心地よさを知ったんです」と言う。その後、市が主催する子育てボランティア講習会を受講し、

小学校や児童会館で読み聞かせをするようになった。そんなある日、前述の健診会場で、泣きやまない赤ちゃんをたたく母親を見て大きなショックを受けた。「待ち時間に絵本を読んであげたい」。その思いに賛同した三十代から七十代のボランティアが集まり「すてつぷ」を結成したのは十四年三月のことだった。

赤ちゃんが声を出して笑い、親が感動する。それが自宅で読み聞かせに結び付く。「赤ちゃんに読んでいるようで、実はお母さんに問い掛けていますよ」。越前さんは続ける。「近ごろ、人とかかわり方が分からない子どもが増えています。親子のコミュニ

赤ちゃんに読んでいるように見えて、実はお母さんに問い掛けていますよ。

今月の

人

絵本読み聞かせの会「すてつぷ」代表

越前 せい子さん (五四)

(北郷在住)



ニケーションが人間関係を築く第一歩。絵本はそのための優れた道具です」と絵本の可能性に期待を寄せる。

これまで「すてつぷ」から読み聞かせを受けた親子は、四千組近くに上る。待合室の雰囲気も和やかになった。さらに昨年から、他の九区でも白石区と同じ活動がスタートした。それに伴って、越前さんの元には問い合わせや講演依頼、視察が相次いだ。これも精力的にこなしただ。「この活動の本当の成果が表れるのは、遠い先のこと。でも、『すてつぷ』のメンバーたちの目線が優しくなり、私自身明るくなったことが最大の効果かも」と笑った。

編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236